

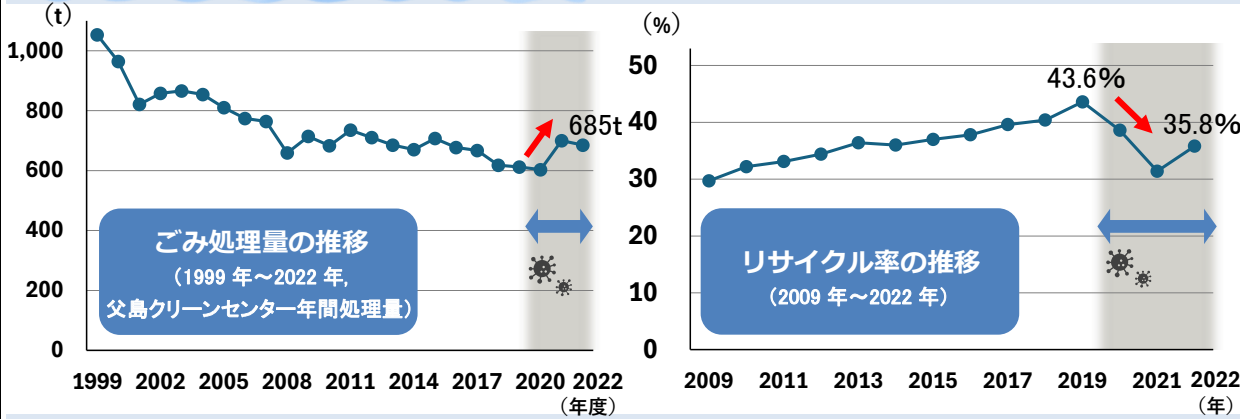


スイッチおがさわライフ ゼロカーボン大作戦



小笠原村は今年3月に温室効果ガスの排出量削減等を推進するための総合的な計画である「地球温暖化対策実行計画(区域施策編)～スイッチおがさわライフ ゼロカーボン大作戦～」を策定しました。今後、2050年までにCO₂排出量実質ゼロとすることを目標に、本計画に基づいて取組を進めていきます。ごみを焼却すると温室効果ガスが排出されることから、ごみを減らすこともゼロカーボン実現への第一歩です。どうしたらごみを減らすことができるのでしょうか?今回は、小笠原村でのごみ処理の現状についてご紹介します。

ごみ処理量・リサイクル率の推移

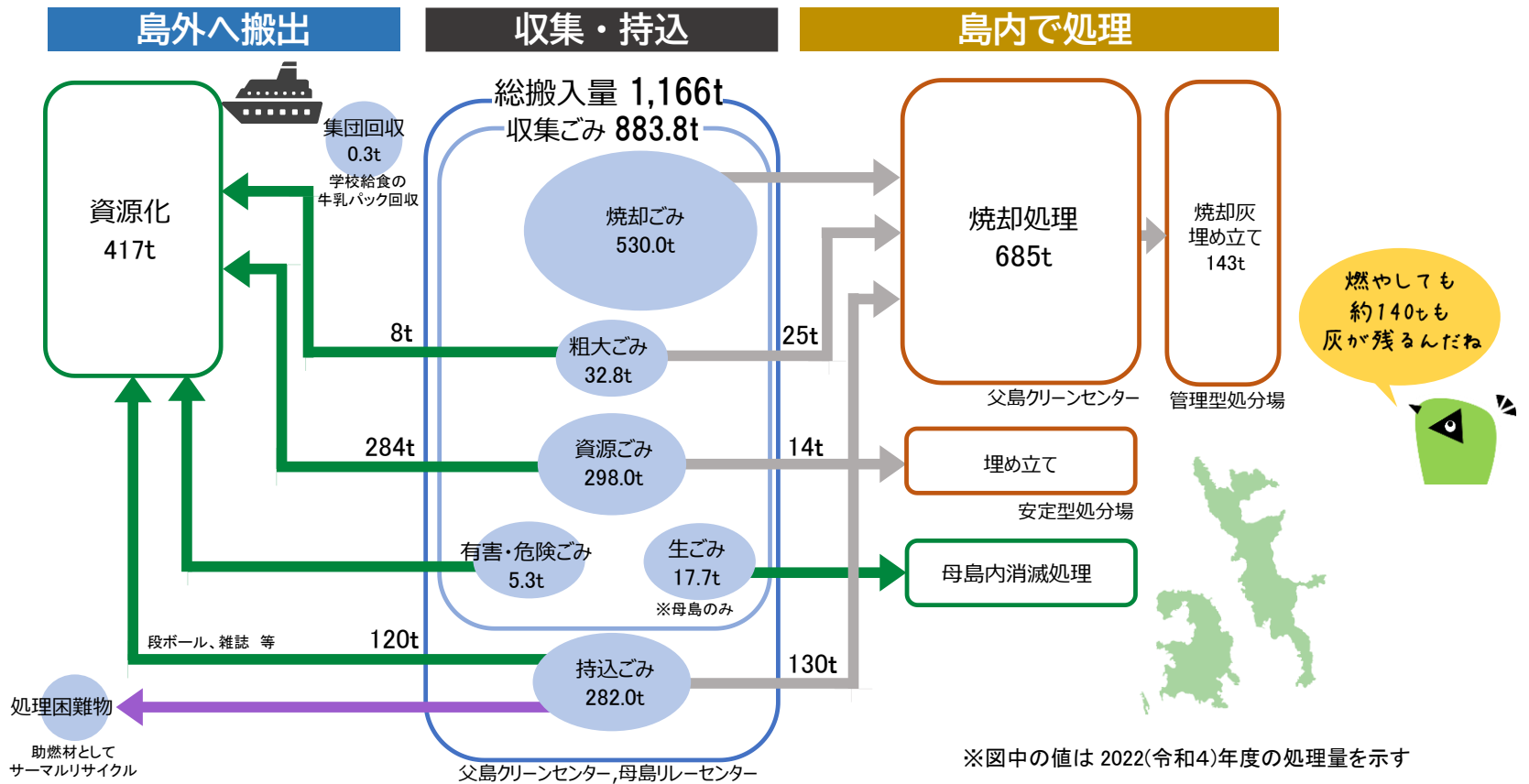


小笠原村の2022年のごみ処理量は685t、リサイクル率は35.8%でした。長期的な推移では、ごみの減量化・リサイクル率の向上がみられます。

ただし、2020年からはごみ処理量が増加・リサイクル率が低下しています。これはコロナ禍のステイホーム中の片付けでのごみ量やリサイクルできない大きなごみの持込が多くなったためと考えられます。

ごみのゆくえ

小笠原村で出たごみはステーションで回収されたり、回収拠点やクリーンセンターへ持ち込まれた後、島内でごみとして焼却されたり、島外へ搬出されて資源として活用されています(下図参照)。ごみの焼却で生じた灰や陶器・割れガラス等は島外へ搬出されず島内の処分場に埋め立てられ蓄積しています。



燃やしても約140tも灰が残るんだね

新しい取組

今年4月から開始した硬質プラのステーション回収(父島)・容器包装プラ拠点回収(母島)に加えて、7月から資源リサイクル拠点回収(父島)・硬質プラのステーション回収(母島)を開始します。

資源リサイクル拠点回収(父島) 詳細は1ページ参照

回収品目

①プラスチック製容器包装 マーク有るもの	②製品プラスチック マーク無し かつ7割以上がプラ かつ硬質なもの	③発泡スチロール
④紙製容器包装 紙マーク有るもの	⑤雑誌・新聞・雑がみ	⑥紙パック マーク有るもの

村役場横 資源リサイクル拠点回収コンテナ

硬質プラのステーション回収(父島) 毎月2回目の水曜日(父島)、年3回粗大ごみの日(母島)に回収します。詳細は小笠原村HPをご覧ください。
「ごみの回収・出し方」→ (小笠原村HP)

容器包装プラ拠点回収(母島) 母島支所入口

今後は、「小笠原村ゼロカーボン対策地域会議」※を開催し村民の皆さまの意見を取り入れながら、ごみの減量化・リサイクル率の向上に向けた検討を行います。
地球環境のためだけでなく小笠原村での快適な暮らしを守るためにも、ごみの量をなるべく減らし、資源として活用できるように、正しいごみの分別にご協力をお願いします。

小笠原村環境課
2-2270

※地球温暖化対策実行計画(区域施策編)における2030年のCO₂削減目標を達成することを目的に開催する会議。公益法人や地域団体他、村内の様々な主体の構成員を参加者とする。